

令和7年度 授業改善推進プラン 高学年

	令和6年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国語	○計画的に話し合い、考えを広げたり、まとめるための工夫や、話し手が伝えたいことの内容の中心を捉えることができる。 ○漢字を正しく読むことができる。 ○物語では登場人物の気持ちや様子を読み取ることができている。 △漢字を正しく書くことに課題がある。 △敬語やことわざ、品詞など、語彙に関する力を高めることに課題がある。 △文章を書く力を高めることに課題がある。	○対話に関して、相手の意図や話題の中心を捉えて話を聞くことや、発言内容と目的や意図を関連付けて考えることができるように指導を継続する。 ○漢字を書くだけでなく、読む時間もしっかりと確保する。 ○物語の背景や登場人物の心情の理解を深めることができる指導を継続して行う。 △一度覚えた漢字は日々活用したり、振り返ってテストをしたりすることで、漢字を覚える意識を児童にもたせる。 △自分の考えを文章で表す機会を多く設定し、主語、述語、修飾語などの関係を捉えながら書く経験を積ませる。 △文章構成を丁寧に指導して、文章中の要点を捉えられるようにする。
社会	○資料や写真をもとに、地形や産業の様子を捉えることができる。 △基礎的な知識の定着に課題がある。5年「都道府県の様子」6年「情報を生かした産業」などの項目は正答率が低い。 △資料から読み取ったことを表現する力に課題がある。	○資料の見方や、写真から様子について考える時間を確保し、考えたことを話し合う時間を設けるなどして、読み取る力を伸ばす。 △理解度が低い単元の知識については、繰り返しの指導の中で触れたり、復習したりする中で定着を図る。 △問いに対して、地図や資料をもとに根拠をもって、考えたり説明したりする活動を授業の中で取り入れることで読み取り考える力を高める。また、資料を丁寧に読む方法を伝えていくとともに、2つの資料を関連付けて読み取る活動を多く取り入れる。
算数	○数の相対的な大きさについての問題の達成率が目標値より大きく上回った。 △文章題の読み取りに課題がある。 △分数と小数の基本的な計算の定着が低い。5年「小数÷整数」6年「小数÷小数」の項目では、特に目標値に対して正答率が低い傾向が見られた。	○数の大小を比較する際には、それぞれが基準量の何個分かを考えたり、それぞれの数における具体物を用意して可視化したりするようにしてさらに理解を深めていく。 △図や表で可視化したり、必要な情報を抽出したりする活動を反復して行う。 △週2回の朝学習の時間を活用し、タブレットドリル(タブドリLive)の中の「確認プリント」や「基本プリント」、「ドリル」などを活用しながら反復練習を行う。定期的に取り組める時間を設定することで、基礎を定着させるとともに理解を深めていく。

理科	○水などの具体物に関連した身近な理科の現象について、正しく理解している。 △人体や星座など実験や観察の困難な内容に関わる知識の習得が課題である。 △実験や観察困難な内容に関わる知識を習得したり、推測し考察したりすることが難しい。	○実験などの体験的活動を通して、児童が科学的知識の習得をしやすいようにする。 △可能な限り、実物を用いて確かめるようにするが、実験や観察が困難な内容は調べ学習を充実させたり、補助教材を活用したりして、児童同士の意見交換を深い学びにつなげることができるようにする。 △模型やシュミレーションソフト、動画教材を活用したりして知識の習得を図る。また知識の習得に留まらず、なぜそうなのかといった因果関係や、そこからわかることを考え、習得した知識を関連付けることができるようにする。
外国語	(第6学年のみの調査結果) ○英語で聞き取った語句(食べ物・スポーツ・曜日・数字など)について、その意味を十分に理解している。 ○教科書に出てくるような様々な英単語と日本語での意味を一致させることができている。 △簡単な英作文を書くことに課題がある。 △音声聞き、アルファベットを書くことに課題がある。(特に大文字)	○ALTの発音を聞いたり、ALTの言ったことを繰り返して言ったりする活動を毎時間取り入れることで、英単語や英文を正しく聞き取ったり理解したりできるようにしていく。 ○ピクチャーカードを用いたチャンツや絵カードを使ったカルタなど、既習の単語を使った活動を授業の最初に反復して行うことで確実に定着できるようにする。 △聞いたり話したりする活動だけでなく、単語や英文を書く活動の時間を十分に確保していく。 △ALTの発音を聞いてアルファベットを書くことを増やす。
体育	○Chromebookの活用を積極的に取り入れ、技能のポイント動画を動画や写真を使って、児童が自分自身で見られるようにすることで児童が主体的に運動に取り組めた。 ○ペアでの練習やチーム練習で互いに良かった点を伝え合うことで、リレーやマット運動、跳び箱運動の技能が向上した。 △ボール運動に関しては、運動のポイントを考えることや自分たちで練習方法を考えることには課題がある。	○Chromebookを活用した学習を積極的に取り入れ、技能のポイントを自分自身で見たり、友達と交流したりすることで児童が主体的に取り組み、さらに思考力が高まるようにする。 ○ペアやチームで協力して技術を向上させている姿を価値付け、友達と共に運動することの良さに気付かせる。 △自ら技能を向上させる方法を考えられるように、練習の仕方を選択肢を作り、自己やチームに合った練習方法を選択できるようにする。また、グループの組み方や指導方法を工夫する。ボール運動に関しては、試合中の様子を撮影し、確認することでチームの課題を明確にすることができるようにする。
音楽	○合奏の表現活動に意欲的に取り組むことができる。 △低学年の頃のコロナの影響で歌唱表現に消極的な児童がみられる。 △リコーダーや鍵盤ハーモニカの技能の差が大きく、一斉指導が通らない場面がある。	○個別の目標を設定し、見通しをもって練習する。 △発声指導を充実させ、児童が心理的負担を感じる事が無いよう、一人一人の声の実態を把握し、個々の声質にあった歌い方を提示できるようにする。 △技能の差が大きいため、個別の支援を充実させる。児童同士が教え合い、学び合える機会や難易度別の課題を多く設定し一人一人が充実した活動ができるようにする。

図工	○全体的に、造形活動に意欲的に取り組むことができる。 ○材料や用具について、前年度の学年までの経験や技能を生かし、表現に適した方法などを組み合わせる力が育まれている。 △児童が、作業に取り組む時間を効果的に使うために、各自、計画的な作業を目指し、児童自身で確実に作業を進められるようにする。 △造形活動では、一人一人が自分の活動に自信をもち、既習経験を生かしながら活動を進めていくことができる力をさらに育てていく。	○児童が興味をもつような題材を吟味し、今まで使ったことのない材料との出会いを大切にする。また、自ら表したくなるようなテーマ設定を工夫し、自己表現することへの充実感や達成感を味わわせる。 ○様々な材料や道具を自ら選んで使用できる機会を設定する。技能的なポイントを児童が理解しやすいように、ＩＣＴ機器を使いながら解説し事例を提示する。また個別の支援を充実させる。 △自分の目で、作業過程や手順、進み具合を確認できるように作業計画の確認表を利用しながら各自、作業を進める。 △黒板や電子黒板に授業の大まかな流れやポイントを書き、児童が確認できるようにする。目的に合わせて道具や材料を自ら選択し、作品づくりに生かせるよう支援する。
家庭	○友達と協力し合って課題を解決しようとしている。調理では、授業で学習したことを家庭でも実践している様子が見られ、学習内容を深めている児童が多い。 ○自分の生活を見直す单元では、習い事等で生活時間を変えられる児童が少なく、学習と生活が結びつかないが、意識の変革にはつながった。 △裁縫技能では個人差が大きい。	○児童にとって身近な課題を設定し、友達同士で教え合える場を設定する。教材を工夫し、主体的に取り組めるような学習活動を増やす。 ○実際に家庭生活に生かせる課題を設定する。 △学習ステップを明示し、段階を追って習熟できるようにする。また、タブレットで動画を繰り返し見て学習することで一人ひとりの学習ペースに合った学び方で確実に基礎技能を身に付けさせる。家庭学習等でも実践を繰り返させることにより、技能の習得につながるようにする。